

(S29-54 用)

研究課題名	高齢者の軽微な外傷で生じる頸髄損傷の麻痺重症度に相対的な脊髓のサイズが与える影響に関する研究
研究期間	西暦 2018 年 3 月 29 日 ~ 西暦 2018 年 12 月 31 日
研究の目的と意義	高齢者の軽微な外傷による非骨傷性頸髄損傷 (SCIWORA) を後ろ向きに調査し、硬膜管内脊髓占拠率が麻痺重症度に影響する因子となり得るかを検証することです。 高齢化社会に伴い、単純 X 線で骨傷や脱臼が明らかでない非骨傷性頸髄損傷 (SCIWORA) が増加しています。高齢者の SCIWORA は、生命予後が悪いため、受傷後の麻痺重症度に影響する危険因子がわかれば、さまざまな対策を講じることができます。
研究方法	2009 年 1 月から 2017 年 4 月の間に平地での転倒で受傷した SCIWORA 症例で、受傷時に 65 歳以上の症例を対象とします。 初診時に神経学的評価 (JOA スコア、ASIA 運動スコア) と画像評価 (CT 像および MR 画像) を行います。 麻痺の重症度に影響する因子を明らかにする目的で、JOA スコアや受傷時 ASIA 運動スコアと性別、年齢、飲酒や糖尿病の有無、CT 像矢状断における C5 椎体中央の脊柱管前後径、MR 画像矢状断における損傷高位の脊髓圧迫率および水平断における C5 椎体中央の硬膜管内脊髓占拠率との関連を統計学的に検討します。(ご不明な点は、下記問合せ先までご連絡ください。)
個人情報の保護、研究参加の拒否について	利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。 また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。
結果の公表	この研究の結果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。
問合せ先	【研究責任者】 京都第二赤十字病院 整形外科 副部長 八田 陽一郎 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171 (代) FAX : 075-256-3451 (代)